

2018年6月19日掲載

## 「AIに負けない力」

専門家によると、あと10～20年で約半数の職業がAI（人工知能）に替わる可能性があるという。大きな社会変化を乗り越えるために、2020年には新学習指導要領が小学校から導入され、大学入試センター試験は大学入学共通テストに変わり、思考力や表現力など点数で測れない能力も求められるようになる。その能力を育むために注目されているのが主体的、対話的で深い学び「アクティブ・ラーニング」である。

先日の週末、北海道大学のグローバル人材育成プログラム「新渡戸カレッジ」のゼミ合宿に参加した。私は今春からカレッジのフェロー（研究員）として、社会人の経験などを伝えながら学生の視野を広げるサポートをしている。

合宿は学生30人が参加。文系理系問わず、アクティブ・ラーニング型授業を通して目標を定め、実現に向けてプロセスを考えながらキャリアプランを作成した。「AI・ロボットには奪われない力」について考える時間もあった。例えば人事の仕事は「AIが数値化して適正な配置ができる」「それだと人間性で評価できないのでは」などと、活発な議論が交わされた。

すべて機械化されるとやる事がなくなってしまう。多少困難なことがあるからこそ、乗り越えたときにうれしさや喜びが生まれる。合宿の夕食はバーベキュー。全員で火起こしから始め、食事まで1時間かかったが一つのものを作り上げる達成感があった。AIが普及しても人との関わりを大切にしていきたい。

（毎日新聞より）